

エクステリアビュー 新春号

EX.VIEW

EXTERIOR
VIEW
2008・Vol.35

INDEX

2008年 新春号・Vol.35

1-2

EX建材事業本部長
新年のごあいさつ

3-6

特別講座
庭と建物をつなぐもの〈後編〉
『団欒する、回遊する、本を読む
庭でなにをしたいのか』湯浅 剛

7-8

スーパー御庭番の達人たち

9-12

第7回
古橋宜昌の
EXプランニング実践塾

13-21

事例ノート

22

御庭会通信



厳しい市場環境を踏まえ 具体的提案を繰り返し、 真摯な物作りで 時代に即した多彩な新商品を！

空
の
下
に

自在空間

08 年頭の所感

あけましておめでとうございます。

昨年は、過度の投機熱による『原油の異常高値』やアメリカにおける低所得者向け住宅ローン『サブプライムローンによる不良債権の拡大』、急激な経済成長による中国国内の『環境破壊』や『偽物ブランド・健康有害商品による輸入国の被害拡大』が進む中、日本では『参議院議員選挙による保守自民党の惨敗』、『突然の内閣総理大臣の辞任』、『防衛省における官民癒着疑惑』といった政局の混迷、身近な問題では食品業界、建設業界を中心に『製造業における不正表示』といった社会的信用を失墜させる不祥事が連続して発生した年でした。

これらの出来事の共通点として、過度の経済最優先（利益至上主義）により、社会的責任を果たすという意識・マインド・行動が軽視されつつあるとも感じられます。改正消安法、改正建築基準法が施行された背景には、そうした経済最優先への警鐘と言う側面もあると思っています。今日の製造に携わる企業の多くは、『お客様満足度第一主義』を掲げていますが、その根底に安全・安心を最優先とする企業としての社会的責任意識・行動が十分に備わっているのか否か、改めて問い直す必要があると思います。

一方、新築住宅着工件数は若年人口の減少に伴い漸減し始めました。

又、改正建築基準法の施行による大幅な新築住宅着工数減が、本年度初頭より、エクステリア需要に大きな影響を与えてくると予想されます。

来るべき厳しい市場環境を踏まえ、我々エクステリア市場に携わっている者としてやるべき事は、販売の原点である、市場への愚直なまでの具体的提案の繰り返し、そして、あくまで品質第一主義に徹した、真摯な物作り、施工、アフターサービスであろうと考えます。

成熟産業の領域に入りつつあるエクステリア業界では有りますが、生活者への外部空間に対するニーズもまだまだ潜在的なものも多く、我々の知恵と工夫でいくらかでも顕在化させる事が出来ると信じております。

この様な背景の元、弊社は「空の下に自在空間」をキーワードとして「ミューテリア」（外部空間と内部空間の同期化による新しい生活提案）と「高品位」を掲げて戦略化を組んでまいりましたが、それを更に発展させて、本年度は、産学共同開発による「ユニバーサル設計」商品、異業種と連携した「ブランドデザイン」商品、新感覚色調の「カラー」商品等、時代に即した多彩な商品投入と併せて、提案力を高めるソフト面も充実してまいりますので、昨年と同様変わらぬご愛顧ご支援賜りますようお願い申し上げます。

エクステリア業界は、「物作り」、多岐にわたる商品群の「アッセンブリ」、「施工」の三位一体がうまく機能してユーザーに喜ばれる産業で有ります。

本年も流通の皆様方と手を携えて業界の品質向上と新しい価値創造に邁進したいと思います。最後に、2008年が皆様にとって素晴らしい年になることをお祈り申し上げます。



エクステリア
建材事業本部長

永田 等

建築家でありガーデンデザイナーでもある
アトリエ六曜舎の湯浅剛さんに、
前号に引き続き、庭と建物をつなぐ
居心地よい自在空間の作り方を教わります。
庭をデザインするうえでの
コンセプトの立て方、骨格の重要性。
子どもの原風景となるような
自然を取り込んだ楽しい生活の景色——
そんな庭づくりを語っていただきました。



屋根付きのデッキで天候に関係なく庭で
団楽。木塀が目隠しになって、外からの
視線を気にせずくつろげます。
(1 様邸／右ページの写真も)



草花と水のせせらぎを楽しむ庭。
美しい景色と心地よい水音を観賞
しながらゆっくり休養できる癒し
の空間です。

アウトドアリビングを楽しむ庭。
家族で食事をしたりガーデンパー
ティなど活動的に。樹木が日射し
を遮るなど環境調節も。

ハーブと菜園のある収穫を楽しむ
庭。左側にハーブガーデン、右側
にキッチンガーデンを設けたアク
ティブなプラン。



木の生い茂った和の庭をリ
フォームして家族の集まるデッ
キを設置。日当たりのいい場所
にはハーブ、塀側には日陰に強
い和の植物を植えて和洋折衷の
庭に。



地面には枕木と砂利を敷き、
デッキからも出入りしやすい変
化に富んだ庭に。水鉢や灯籠は
以前の和の庭で使っていたもの
です。

団楽する、回遊する、本を読む 庭でなにをしたいのか 湯浅 剛 <アトリエ六曜舎>

「観賞」「休養」「活動」「環境調節」 庭の目的は優先順位をつけて

前回は庭と建物の関係についてお話ししましたが、今回は、庭を
デザインする基本的な考え方と手法を紹介していきます。
庭をデザインする前に、まず考えなくてはならないのは、その庭
のおもな利用目的や機能、全体のイメージといった「コンセプト」
をはっきりさせることです。

コンセプトがまとまらないうちにプランニングを進めてしまうと、
あいまいで漠然とした空間になってしまいます。無駄な場所がで
きたり、使いにくかったり、それぞれの場所の要素やイメージがま
ちまちで落ち着かない庭になってしまう恐れがあります。

なかでも、庭をどう使いたいのかという「目的」は重要です。それ
は大きく「観賞」「休養」「活動」「環境調節」などに分類されます。
こういった庭の目的について、住まい手のもっとも重要な希望から
小さな希望まで、優先順位をつけながら整理しましょう。そうす
ればコンセプトがより明確になります。

右ページのイラストはある一定の目的を盛り込んだプランです。
「草花と水のせせらぎを楽しむ庭」は、テラスで景色を眺めなが
らゆっくり休養し、植物や水音をなどを観賞。心安らぐ癒しの庭です。

「アウトドアリビングを楽しむ庭」は、キッチン付きのウッド
デッキを設置したので、家族で食事をしたりガーデンパーティをす
るなど活動的な使い方ができます。要素要素の樹木が夏の日射し
を遮って高温をやわらげるなど、環境調節にもひと役買っています。

「ハーブと菜園のある収穫を楽しむ庭」は、庭にハーブガーデン
とキッチンガーデンを設けて、ガーデニングを思いっきり楽しめる
アクティブなプランです。

古い庭をリフォームして 家族が集まって団楽するデッキを設置

もっと具体的に、事例でご紹介しましょう。

1 様邸(上の写真)はリフォームです。もともと木がうっそうと
繁った庭でした。もうちょっと明るくしたいというご希望があつて
木を少なくし、歩ける道をつくり、家族が集うデッキを設置。以前
木が多かったときは、室内から眺める程度の庭でしたが、リフォー
ム後は家族が外に出て団楽を楽しめる庭になりました。

できるだけデッキを広く取りたかったので、かわいそうなのは
が、既存樹木をかなり取り除きました。そしてデッキを木塀ぎりぎ
りまでつくりました。

ポリカーボネートの透明な屋根とシンクをつけたので、天候を
気にせず室内感覚でいつでも家族が集い、お茶を飲んだり簡単な

食事でもできますし、友人を招いてバーベキューなども楽しめます。
木塀の裏は隣家のアプローチですが、塀と植栽がさりげなく視線
を遮ってくれるので、落ち着いてくつろげる場所になりました。

もとの庭にあった水鉢や灯籠などを生かして和洋折衷的な印象
に。日当たりのいい場所にはハーブを、日陰になる場所には半日陰
に強いムラサキシキブやアオキなど和の植物を植えました。花色
のトーンがひかえめな葉物を中心としているので統一感がありま
す。また、狭い庭にあまり大きな葉のものを植えると、圧迫感が
出てますます狭苦しくなってしまうので、細かい葉を使うことで
広く見せるように配慮しました。

ボードウォークを渡して通路にすると 狭い庭も楽しく回遊できる

もうひとつの実例(P.5の写真)は、わが家の庭です。平面図を
見ていただければわかるように、わが家は建物の周囲に狭いス
ペースがあるだけで、庭と呼べるような代物ではありません。しか
し、そういう狭いところも工夫次第で面白い空間になります。

たとえば「ボードウォーク」。幅が狭く細長いスペースに木製の
ボードウォークを渡して、通路にしています。こういう舗装のエリ
アがあると、狭くてうっそうとしている庭でも雑然となりにくく、

気軽に歩けます。

とくに子どもは家にじっとしていません。どんなに狭くても、見
ただけでなく出られる庭があれば、喜んで探検に出ていきます。ど
うしてもスペースが取れなかったらテラスや玄関先でもいいので、
ちょっとした遊べるスペースをつくってあげたいものです。

庭の骨格がしっかりしていれば どんな植物を植えても違和感なく調和

コンセプトが決まったら、庭を具体的にデザインするわけですが、
そこでまず必要なのは「骨格をつくる」こと。

僕はイギリスでジョン・ブルック氏に強く影響を受けました。も
ともと不思議な縁があったようで、夢科のバラクラ・イングリッ
シュガーデンの設計をしたのが彼で、あそこの建物の設計をした
のが、僕が以前在籍していた一色設計事務所だったんです。

イギリス留学中、とある庭を見にいったときにたまたま彼に会っ
て、その後私的な園芸スクールのコースを受講したり、卒業論文の
ためにインタビューをさせてもらったりと、いろいろお世話になり
ました。

彼は伝統的なイングリッシュガーデンのデザイナーではなく、
1970～80年代に新しく台頭してきたグローバルで幾何学模様



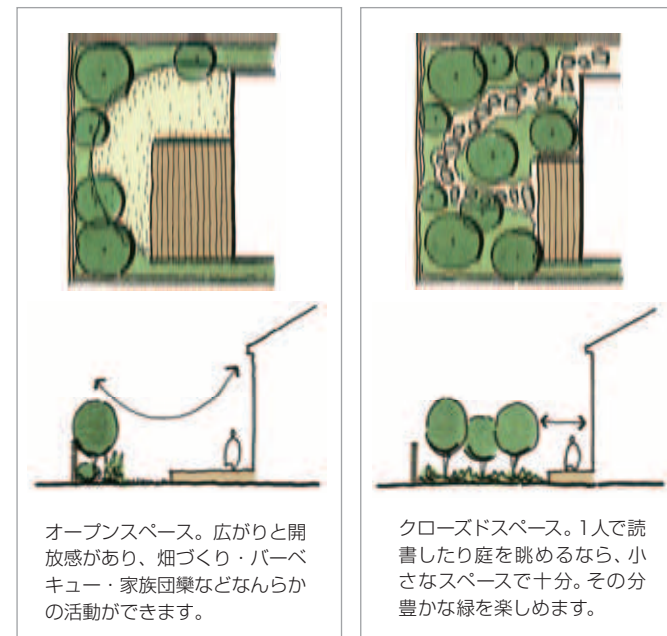
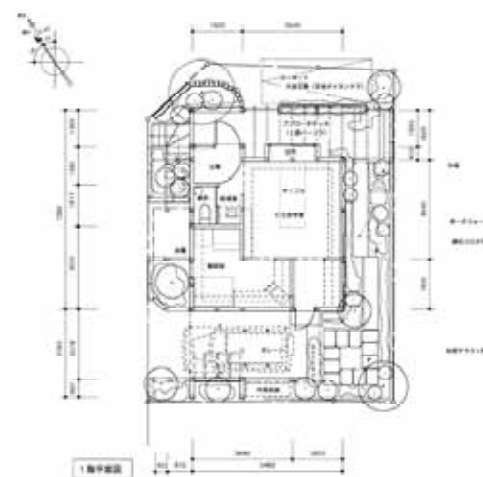
見る庭でなく、外に出て回遊する庭に。家の周囲の狭いスペースに木のボードウォークを渡して通路にしたため、子どもたちが楽しそうに行き来しています（湯浅氏自邸／右の写真も）



大谷石で舗装と土留めの骨格をつくり、高木、低木、グランドカバーを配しました。グランドカバーの植物は気ままに伸びていますが、骨格がきちんとしているので、雑然としたイメージにはなっていません。



1本の木が建物の固さを和らげ、街並みに対する景観上の重要な骨格となっています。



オープンスペース。広がりや開放感があり、畑づくり・バーベキュー・家族団欒などなんらかの活動ができます。

クローズドスペース。1人で読書したり庭を眺めるなら、小さなスペースで十分。その分豊かな緑を楽しめます。

わが家は庭の一角を土のまま残していてそこにダンゴムシがいたりする。

遊ぶ娘たちは嫌がるんですが、虫がいた記憶も悪くないんじゃないかなとあえてそのままにしてあるんです。



道路に面した2階のダイニングキッチンの窓は、お嬢さんの登下校を見守るやさしい窓でもあります。シンボルツリーとともに、暖かい風景となっていていつでも思い出に残りそう（A様邸）



なデザインを特徴としています。その彼のデザインポリシーのひとつが、「まず骨格を決めましょう」ということだったんです。

骨格とはハードな部分——デッキやテラス、アプローチ、塀、パーゴラといった、植物とは違う「構造物」です。ただし植物でも大きい木は骨格になります。木も庭の構成を決める重要な視覚的な要素になりますから。そして、庭の骨格をしっかりとつくりおきさえすれば、多少間違った色の花を植えようが、手入れを怠ろうが、意外と違和感なく調和してしまうものです。

逆に、骨格をきちんと構成しておかないと、まとまりがなく手間のかかる収拾のつかない庭になってしまう恐れがあります。

たとえば、前出のわが家のボードウォークも骨格です。こういうものをきちんとつくっておくと、現在結構雑草が生えるがままになってしまっているんですが、あまり気になりませんね(笑)。

**広いけれど緑は少ないオープンスペース
狭いけれど落ち着けるクローズドスペース**

骨格の構成を考えると、舗装や芝生などの開けたイメージの「オープンスペース」と、植物をたくさん植えた「クローズドスペース」の割合やバランスについても、検討する必要があります。

右ページのイラストをご覧ください。たとえば、庭でなんらかの活動をしたい場合は、デッキでもテラスでも芝生でも、あるいは菜園でもいいんですが、そういう広い開かれたスペース（＝オープンスペース）が必要になってきます（左のイラスト）。

でも、1人でお茶を飲みたいとか、読書したいというぐらいなら、

小さなスペースがあれば大丈夫（右のイラスト）。そのかわりに、緑いっぱい雑木林のような庭をつくることができます。

左は、広く感じるけど緑は少ない。右は、狭いけれど緑豊かで落ち着きがある。お客様の希望をよくきいたうえで、どちらのコンセプトが求められているかを判断して提案することが大切です。

**自然がもたらす季節感、家族とのふれあい
庭は子どもの「原風景」をつくる**

植物の手入れをしたくない、という人は結構多く、庭に緑を入れることにあまり前向きでない場合もあります。

しかし、やはり緑が室内から見えると、四季の変化を感じたり、癒されるなどいろいろなメリットはあるので、そういうお客様も说得して少しでも緑を入れるようにしています。

とくに、自然との接点が子どもたちに与える影響は、非常に大きいと思っています。庭というのは、子どもたちにとってはかけがえのない「原風景」になると思うからです。

たとえば僕らの原風景は、今はもうその家はないんですけど、玄関先のジンチョウゲなんです。3月になると咲いてきて、すごくいい香りがする。そのインパクトが強くて、その香りがすると今もその家やその時のことを思い出します。些細なことかもしれませんが、身近に感じられる植物とか、そこに来る虫とか、そういうものが子どもの情操にとっては非常に大切なことではないかと思うのです。

わが家は庭の一角を土のまま残して、そこにダンゴムシがいたりする。遊ぶ娘たちは嫌がるんですが、泥んこになって遊んだと

か虫がいたといった記憶も悪くないんじゃないかなと思って、あえてそのままにしてあるんです。

**住まい手の思い出をつくるお手伝い
誇りと責任感で質の高い仕事を**

子どもにとっては、家とか庭というのは、おそらく人生のベースになる風景です。ですから、そこで自然とのふれあいを持たせ、四季の変化を感じさせながら、楽しい思い出の風景を持たせてあげるのも、親の役割ではないかと思っています。

最近、家族のシンボルツリーを植えるといったことも広まってきましたね。うちにはジュンベリーという木があるんですが、春の花から新緑を楽しみ、6月には実がなる。おいしいから娘たちが友だちと摘んでは食べています。そういうことを通じて自然とふれあい、それが思い出になるのではないかと思います。

A様邸（上の写真）は、お嬢さんの学校の行き帰りを窓から見守れるように、という考えから、2階のダイニングキッチンから道に向けて窓をつけました。毎日、窓からシンボルツリー越しに眺めるお嬢さんの元気な姿。お嬢さんにとっても、大きな木と窓迎のお母さんの笑顔は、暖かい風景になって残るでしょう。

エクステリアやガーデンの設計・施工に関わるということは、住まい手の思い出に残る大切な風景をつくるお手伝いをする事だと思います。そういう誇りと責任感をもって住まい手と向き合い、質の高い仕事をしていくことが大切ではないでしょうか。



ゆあさ つよし
湯浅 剛 一級建築士

1965年 大阪府生まれ
1988年 京都工芸繊維大学工学部建築学科卒業後
株式会社一色建築設計事務所入所
1992年 同退社後英国留学
1994年 クリニッジ大学ランドスケープ学科卒業
1995年 妻・景子とともにアトリエ六曜舎設立
住宅とランドスケープの設計を中心に活動

（社）日本建築家協会会員
昭和女子大オープンカレッジ講師（97～03年）
法政大エクステンションカレッジ講師（98～05年）
著書「ガーデニング入門」（農文協）ほか



スーパー御庭番の達人たち…⑧

御庭番ユーザー様のハイレベルな仕事ぶりをレポートするこのシリーズ、今回は、なんと！インテリア図面や道路申請図面まで御庭番でつくってしまうという「なんでもかんでも御庭番」なハードユーザー様の登場です。

細部までこだわりたいし、工夫するのは楽しい 複雑なアール塀に3日かけたことも

御庭番歴は9年、その前に手描き歴が5年ほどあります。もともと御庭番はアシスタントの女性が使うために導入したんですが、横から見ていて面白そうだなと思って。で、夜1人でいじってみると結構簡単で、最初からそこそこ描けたんです。それでハマってしまって。御庭番は操作がわかりやすく、初心者でも入りやすいですね。以前の御庭番は、複雑なデザインは描きにくかったですね。なのでアールの塀などは、階段の段々を1段1段細かくカットして、なめらかになるようにつなげてつくったりしました。でも「高低差があってらせん状に下ってくるアール塀」みたいな超複雑なものは、そこだけで3日もかかっ

たことがあります(笑)。そこまでして…と思うんですが、やっぱり工夫するのが好きなんでしょうね。デザイン的なこだわりもあります。そういうオリジナルをつくるときは、なるべく一気に作業します。「左から18個目の点まで」とか細かく数えながらつくっていますので、中断するとわからなくなってしまうからです。今では“変化塀”のバリエーションが増えて、アールの塀もかなり簡単につくれるようになったし、小物や樹木などのアイテムも増えました。しかしやっぱり既存品だけではできない部分もあるし、インテリア図面などへの応用もできたりと、まだまだ工夫する楽しみはあると思いますね。



スーパー御庭番の達人
(株)ミスターリホームサービス
チーフアドバイザー
中津隆博様



御庭番のテクニックだけでなく
デザインセンスが素晴らしい

(株)ミスターリホームサービス
代表取締役
稲田大二様

当社は彼と私と2人でやっていますが、彼はエクステリア、私は住宅リフォームと完全に分業なんです。エクステリアは非常にセンスを要する分野だと思いますが、彼は御庭番のテクニックだけでなく、デザインセンスも非常に卓越したものを持っている。それが素晴らしいと思いますね。…と、このぐらい持ち上げておけば、またリフォーム図面も描いてくれるかな(笑)。



その1 達人のテクニック

屋根は1面ずつ勾配の計算をして
寄せて寄せてつくる

複雑な形状の屋根は自分でつくります。屋根面を1面ずつ別々に勾配の計算をして、角度を合わせ、寄せて寄せて仕上げていきます。



その2 達人のテクニック

座布団やテーブルなどの小物づくりも

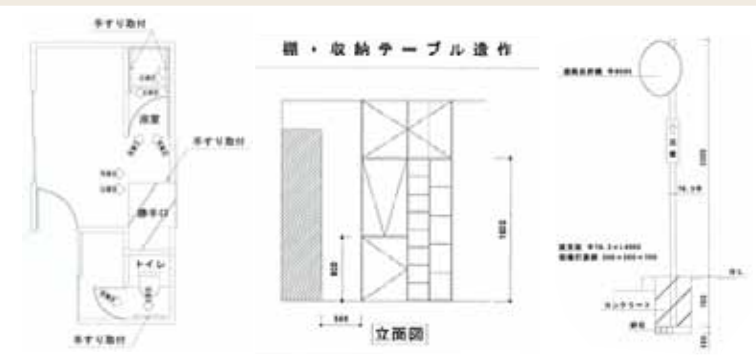
たとえば座布団は円柱をつづして、テーブルは直径の違う円柱を2段重ねにして。窓の前の目隠しは竹垣を使っています。以前はベンチもなかったのに、棧をカットしてつくりましたが、今はこのベンチもちゃんと入っています。小物のアイテムが増えてラクになりましたね。



その4 達人のテクニック

平面図・立面図、道路反射鏡
ええっ、こんなもので御庭番で…?!

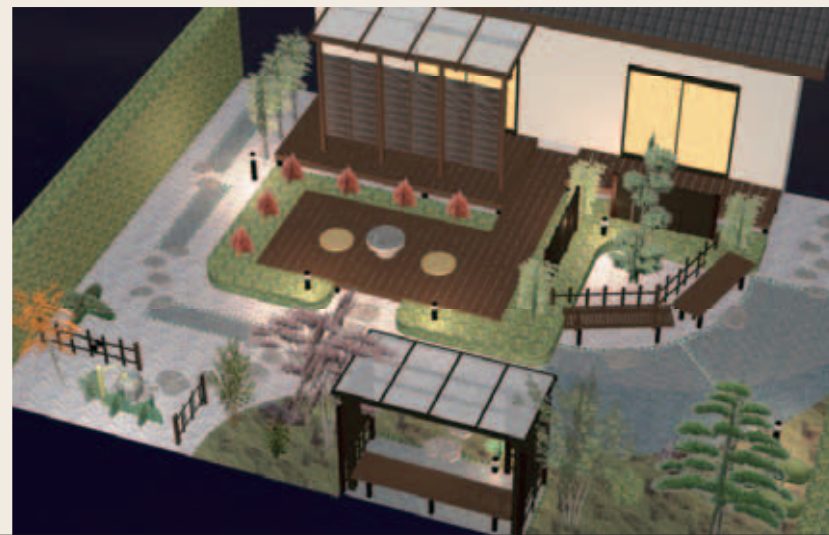
リフォーム部門の室内の平面図や立面図も描きます。壁は塀を使って、ドアはアール塀を“厚み1”にして、トイレの曲線はアール塀を3つ組み合わせて。ガードレールの申請図面も、道路反射鏡まで御庭番で描きました。手描きより手間がかかったりするんですが(笑)、工夫するのが面白いんです。



その5 達人のテクニック

「見せ方」にもこだわって
影は薄めに、夜モードも提案する

まず、影は薄くして、なるべく日の当たっている南側から見せるようにします。それが一番色を忠実に再現してくれるからです。お客様にとって色のイメージはかなり強く、影が濃いと「色が違う」と言われてしまうことがあります。また、昼間だけでなく夜のイラストも一緒に提案するようにしています。こうすることで生活のイメージが広がるからです。



その3 達人のテクニック

ガルバリウム鋼板はアルミの管材を長くして並べて

現在はもうあるんですが、以前まだガルバリウム鋼板の外壁が御庭番になかったころは、自分で工夫しました。ガルバリウムのクールなイメージを出すのが難しく、いろいろ考えて、白いアルミの管材を長くしてズラッと並べてつくりました。



達人の
失敗談

タマリユでデータが止まる?

床にタマリユを植え込みすぎて、データが重くなって止まってしまったことがあります。みなさんもタマリユはほどほどに(笑)。いつもで上がり方を想像しながら「このぐらいの数値かな」と計算してつくってるんですが、“バース1”を押したら、ラインが一部だけビヨーンと飛び出してるなんてことも(笑)。なので、イメージ通りにできると嬉しいですね。



古橋宜昌の EX プランニング実践塾 第7回

■ 前回の課題の確認

まず始めに前回の課題の敷地条件及び施主の要望について確認しておきましょう。
敷地条件は東側に道路がある東入りで、道路と敷地の高低差は 300mm でした。

主な施主の要望は

- ・クローズドスタイル
- ・1 台分の駐車スペース
- ・車イス用のスロープ
- ・物置が置けるサービスヤード

などでした。

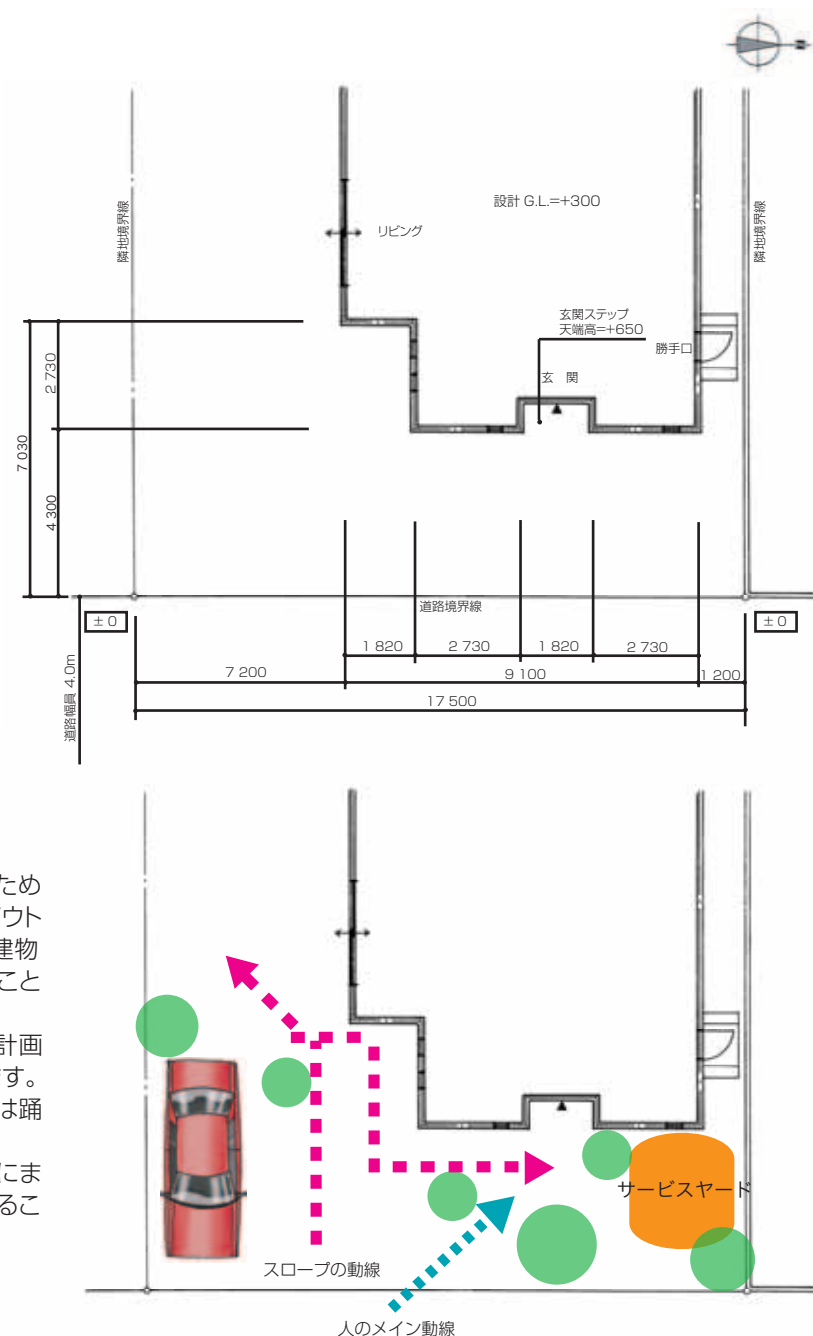
スロープは駐車場から庭、そして玄関へとアクセス出来るように考えることがポイントでした。

みなさんはどのようなプランでまとめられましたか？

今回もまずはゾーニング図を使って基本的な考え方や、動線計画を解説していくことにしましょう。

■ ゾーニング

車イス用のスロープは距離を稼ぐためにも駐車場から庭に向かってレイアウトし、再び道路方向へUターンさせ、建物に沿って玄関方向へと変形させることにします。
駐車場の横幅は通常よりも広めに計画し、車イスを横付け出来るようにします。スロープがU字やL字に曲がる部分は踊り場とし、床は水平にします。
一方、人のメイン動線はコンパクトにまとめ、門を道路に対して斜めに構えることで変化をつけてみましょう。



Furuhashi Norimasa



古橋 宜昌
ふるはし のりまさ

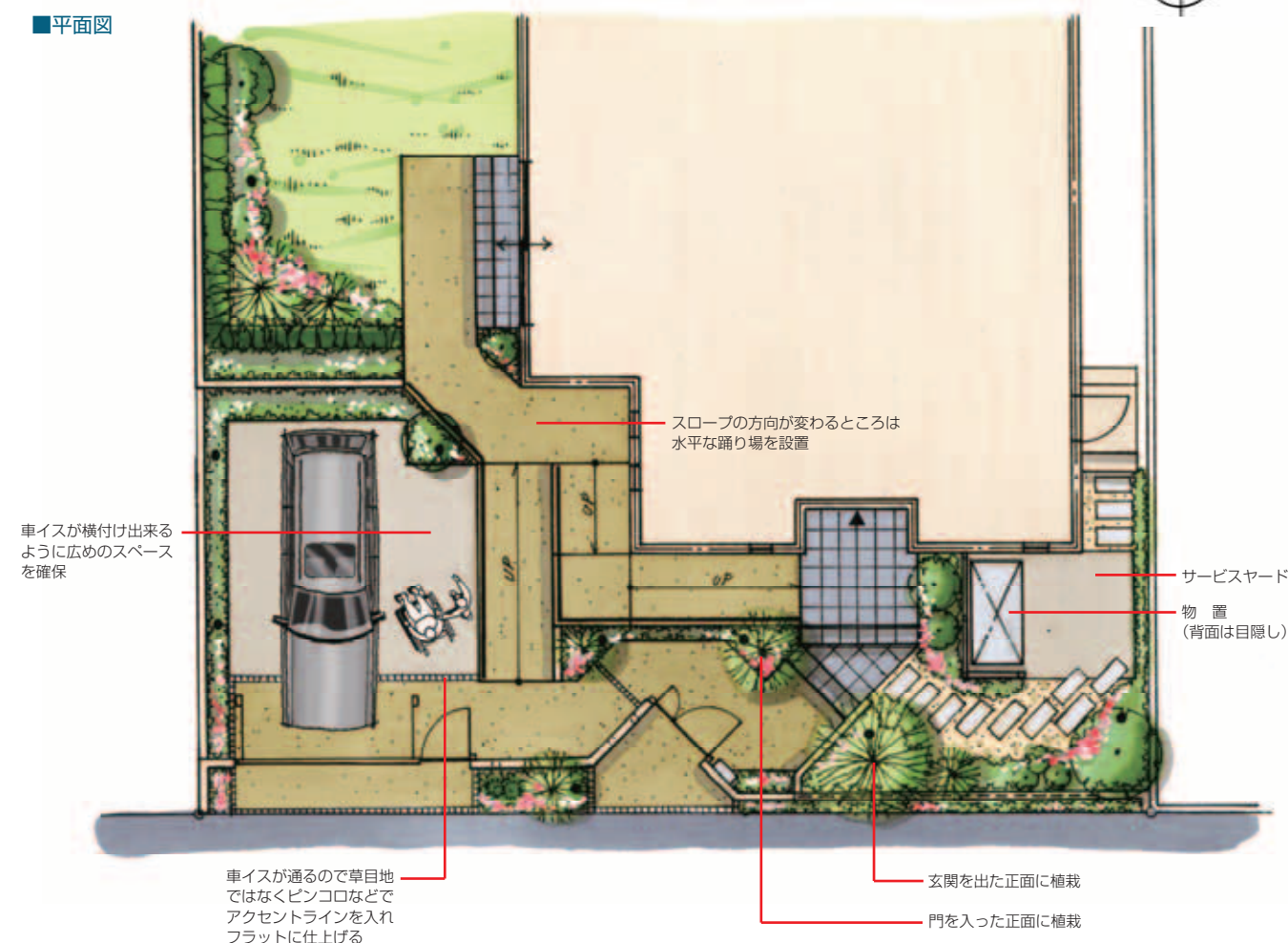
生年月日：1958年4月6日
東京電機大学理工学部建設工学科卒。
有限会社エクスプランニング代表取締役・エクステリア&ガーデンアカデミー東京校長・
一級建築士・一級造園施工管理技士・一級土木施工管理技士。
JAG日本ガーデンデザイナーズ協会会員・英国王立園芸協会会員・同推奨品認定委員・大手ハウスメーカーのエクステリア部門を経て、
1997年、日本では珍しいエクステリアとガーデンの設計業務を請け負う会社「エクスプランニング」を設立。
個人住宅のエクステリア&ガーデン設計は年間500棟を越え、その設計事例は多くのガーデニング専門誌等で紹介されている。
ホテルオークラで開催されたガーデニングショーでは「イギリス大使夫人の庭」のデザインと施工を担当。設計業務の傍ら専門学校や
英国王立園芸協会などのセミナーの講師、デザインコンテストや「TVチャンピオンガーデニング王選手権」の審査員なども務める。

ホームページアドレス <http://explanning.m78.com>

■ 模範プラン

それではゾーニング図をもとに作成しました模範プランをご覧ください。
スロープの途中から動線を分岐させ、庭と玄関方向にアクセスできるようにした点がポイントです。

■ 平面図



■ 立面図



■ イメージパース

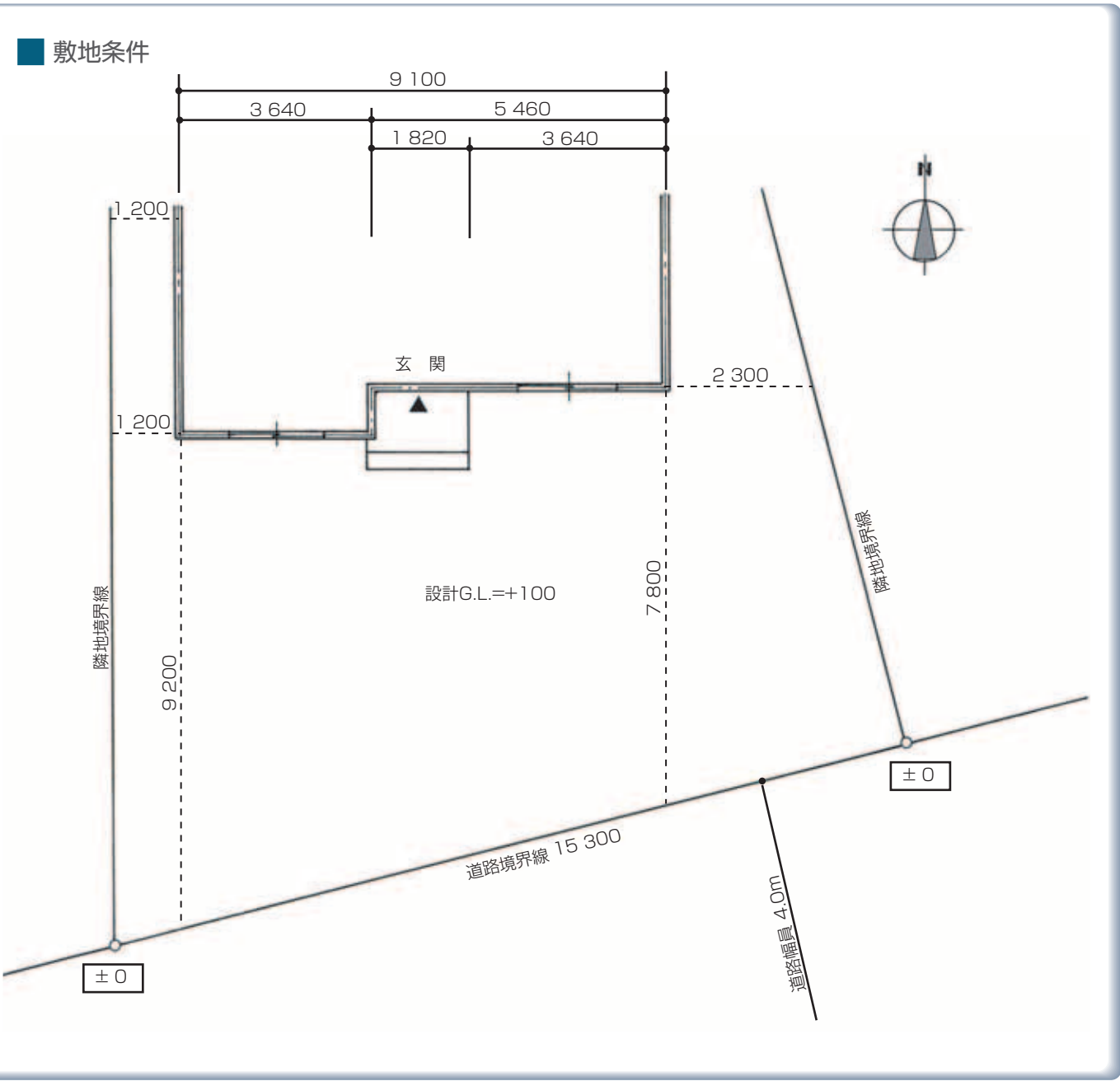


もちろん、このプランが正解という訳ではありませんので、あくまでもプランの一例としてご覧いただきご自分で考えられたプランと比較して、各ゾーンのバランスや納まりなど、実邸を設計する際の参考にしてください。

第7回目の課題について

それでは今回の新しい課題をご覧くださいませう。
敷地の条件は下記の通りで、南入りの敷地となっています。道路と敷地の高低差は100mm となっており、変形敷地に住宅が配置されています。

下記の敷地条件や施主の要望を踏まえて、ゾーニング図・平面図・立面図（可能であればパース図）を作成し、次号の模範プランと比較できるように準備しておいてください。



施主の要望

- スタイルはまったくのオープンでは落ち着かないのでセミオープン程度で提案してください。
- 道路から室内が丸見えにならないようにしてください。
- 駐車場は 2 台分確保してください。
- 敷地が変形しているのでそれを考慮してデザインしてください。
- 東及び西側隣地境界には内積みでブロックフェンスを設けてください。

「私ならこう考える！ゾーニング手順と計画時のポイント」

今回も私がプランニングする際に、どのようなことを考えているのかその一部をご紹介します。プランニングの参考にしてみてください。

変形敷地に対するプランの考え方

今回の課題では変形敷地に対して、いかにスッキリと各ゾーンを納めるかがポイントとなります。変形敷地はデッドスペースが生じやすく、そこをデザイン的にどのように処理するかが腕の見せどころとなるでしょう。

このような敷地の場合はグリッドを描き込んでみるとイメージがつかみやすくなりますので、その手法をご紹介します。

Step-1
まずは道路境界線を基準に等間隔でグリッドを引いてみます。(図-1)

Step-2
今回は 2 台駐車なので庭のスペースを比較的確保しやすい L 型駐車をイメージしてグリッド内にレイアウトしてみます。

Step-3
すると、建物と駐車場の間のスペースが変形してしまい、庭のデザインがちょっと難しくそうです。

Step-4
次に建物の外壁ラインを基準にグリッドを引いてみます。(図-2)

Step-5
そして同じく L 型の駐車パターンでグリッド内にレイアウトしてみます。

Step-6
これですとガーデンスペースがスッキリとした形で残るので、庭のデザインも考えやすくなりそうです。

Step-7
但し、前面道路及び東側隣地境界側に三角形のスペースができてしまったので、ここをどのように処理するかがポイントとなりそうです。

Step-8
このスペースは積極的に植栽スペースとしファサード部分の緑量をしっかり確保したプランにすると良さそうです。(図-3)

Step-9
あとは道路から室内が丸見えにならないよう配慮しながらプランを進めてみましょう。

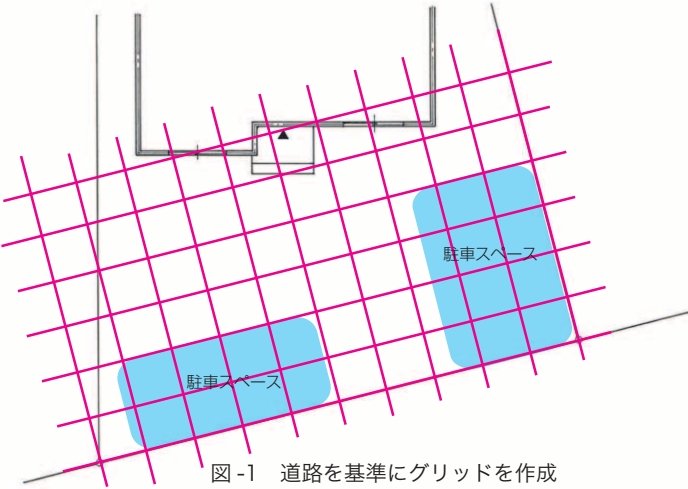


図-1 道路を基準にグリッドを作成

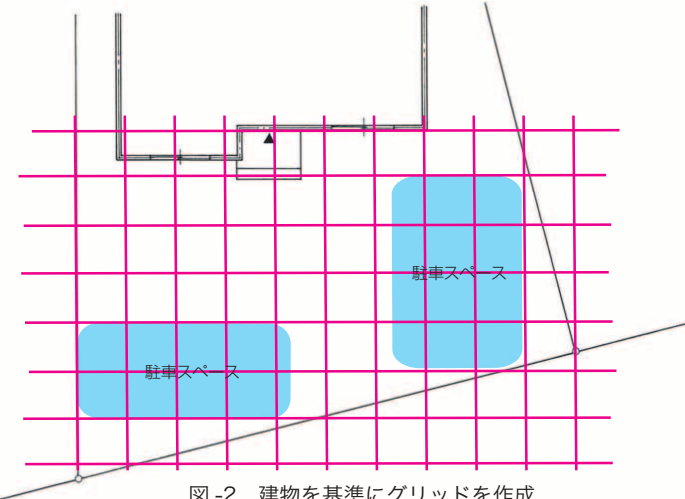


図-2 建物を基準にグリッドを作成

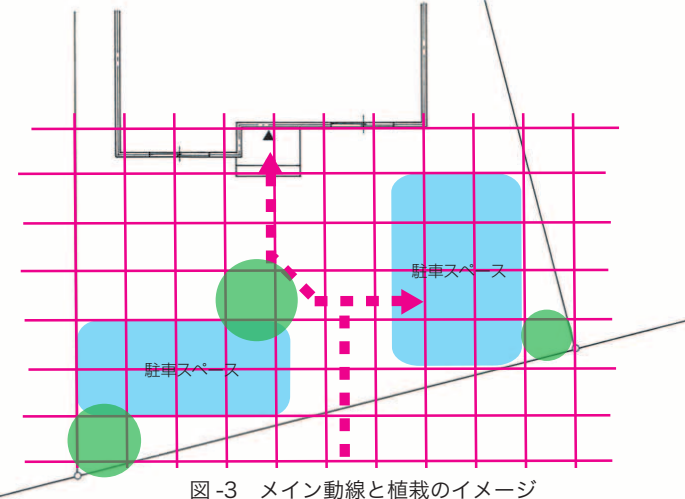


図-3 メイン動線と植栽のイメージ

模範解答は次号で掲載、解説しますので、以上のことを踏まえて素敵なプランを考えてみてください。

事例ノート CASE 1

青森県弘前市
Dプラザ&POP-1様

生活雑貨ショップ+エクステリア展示場で、新しいお客様を積極的に開拓！



支店長
松山康博様

創業は昭和24年。株式会社山武を母体とする当初はサッシやガラスなどの商品を販売する仕事でしたが、これからは直販部門も強化しなくてはとの考えで、12年前にエクステリア展示場「Dプラザ」を設立。エンドユーザー様へ向けたカーポート販売やエクステリアの設計施工を行ってきました。

去年7月、そのDプラザが高田支店から現在の場所に移ったのを機に、生活雑貨の店「POP-1」もプラスすることに。目的はズバリ「集客」でした。オープンフェアは、新聞折り込みチラシ、テレビとラジオのCMなどで宣伝。お客様は非常にたくさん集まってくれましたね。その後も、年に2回フェアを行って定期的に集客をはかっています。

「POP-1」は生活雑貨を揃えた店です。エクステリアの店は、ハッキリとした目的がないとなかなか来店することはありませんが、雑貨は気軽に来店されるお客様が多いので、それをきっかけに当店を知っていただき、カーポートが必要になったりエクステリアを計画するときに利用していただければと考えています。ただ雑貨は商品選定が難しいですね。若い人向けよりも、住宅取得層の30〜40代が好むものと考えながら選ぶようにしています。

スタッフは、支店長と一級建築士1名と営業3名、店頭接客2名（女性）です。実績は、フェアの後でカーポート15台前後ぐらいでしょうか。

エクステリア部門は、当初からずっとエンドユーザーのお客様主体にやってきて、現在リピーターとご紹介が非常に多いですね。

このあたりでは、エクステリア全体をデザインするというよりも、カーポートや門扉をつけたいという要望が多く、現在カーポート設置が仕事全体の6割ぐらいです。また修繕などの依頼も多いのですが、どんな細かい仕事でも嫌がらずにしています。それがリピーターや紹介にもつながっていると思いますから。

最近は住宅リフォームも手がけるようになってきたので、ゆくゆくは家も外まわりもトータルに提案していきたいと思っています。



左から支店長・松山様、下山様、齋藤部長様、木村様、対馬様、古川様。
チームワークの良さではどこにも負けません。



広報活動は新聞折り込みチラシで。
平成18年7月のオープン時のチラシ（左）と、
現在年2回行われているフェアのチラシ（右）

エクステリア展示場

「Dプラザ」



門まわり商品とカーポートを中心に、デッキやサンルーム、物置なども展示して、さまざまなエクステリアを提案。さらに年に2回、春と秋にフェアを行って集客をはかっています。



スノースターで積雪地域のカーポートを明るく
Mu様邸

「明るくて積雪にも強いカーポートを」というご要望にこたえ、屋根に採光性のあるポリカーボネート板を使ったスノースターを設置。駐車スペースだけでなく、アプローチも屋根の下におさめたので、「車から降りて濡れずに玄関まで入れて便利」とお施主様も満足されています。



【エクステリア全景】
駐車スペースとアプローチをスノースターのひとつ屋根で覆ったプラン。玄関前は梁を延長させて柱をよけているため、アプローチ〜玄関の動線もスムーズです。



【明るいカーポート】
積雪対応のカーポートの屋根は折板が多くどうしても暗くなりがち。その点このスノースターは、透明ポリカーボネート板の採用でこんなに明るく圧迫感がないのが魅力です。

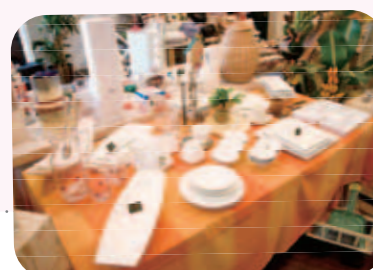


【カーポートの屋根】
透明ポリカーボネート板が空を透かすので、屋根の下はこんなに明るくなっています。

生活雑貨ショップ

「POP-1」

20坪の店内には、インテリア&エクステリアの生活雑貨がもりだくさん。カラフルで楽しい雰囲気です。商品は、普通の生活に使える実用性を備え、使いやすく、なおかつセンスなデザインのものを含み。ビッグサイトで行われる雑貨の見本市「インターナショナルギフトショー」を始め、さまざまな雑貨の展示会などをチェックして仕入れています。



生活の中で使いやすい雑貨をセレクト「わかりません」と言わない接客を

商品セレクトは楽しいですね。たとえばキッチン用品なら、洗ってすぐ汚れが落ちるといった使いやすさを大切に選んでいます。接客するうえで心がけているのは、「わかりません」と言わないこと。しっかりとお客様のご相談に乗れるようにしたいと思っています。これからも、他でなかなか見つからないような雑貨を探して置いていきたいですね。



生活雑貨ショップ「POP-1」の商品セレクト&販売を担当する対馬和枝様

カーポートを奥行連結して前後に2台駐車

Mi様邸

敷地の左側に門扉～アプローチ、右側にカーポートを配置。カーポートには耐久性に優れるG-1を採用。シンプルモダンの建物と、シルバー色やカーポートの直線ラインが調和しています。(塀と庭はまだ工事中)



【奥行連結のカーポート】
縦長の駐車スペースに合わせ、カーポートG-1を奥行連結したプラン。手前の2本の梁は屋根よりも延ばして柱を外に逃がし、車の出入りをしやすくしています。



【カーポートの屋根】
G-1の折板屋根。一部に透明のポリカーボネート板を入れているので明るさも十分です。柱同士も連結された堅牢なつくりで、積雪や風にも安心。

積雪150cm対応のニューG-1が建物と調和

T様邸

「パソコンで検索して、施工例なども充実していたのをお願いすることにしました」と奥様。車3台が駐められるカーポートの設置と、コニファや自然な感じのアプローチづくりをとのご要望に応え、ニューG-1（積雪150cm対応の新製品）や枕木などを採用したエクステリアを提案。



【枕木のアプローチ】
建物の左側には、枕木と芝生とコニファでおしゃれに仕つらえた中庭へのアプローチ。

エクステリアも住宅建材もトータルに

Y様邸

カーポートにはG-1、フェンスにはニューピラフェースを採用しました。住まいの外壁タイルやサッシなども当社で施工、トータルにバランスのとれたデザインに仕上がっています。



【フェンス側から見た全景】
フェンスにはニューピラフェースを採用。ダークな色調が外観を引き締めています。



【エクステリア全景】
2台分のカーポートという要望に応じてG-1を設置。アプローチも兼ね、車から降りて玄関まで濡れません。玄関の開閉口が高いので、G-1の柱は高さ2700mmの奥行連結用を使用して屋根を高くしています。



【エクステリア全景】
家の前に広いスペースがあり、その一部にニューG-1で3台分のダイナミックなカーポートを設置。アーバングレー色が建物のベージュ色と調和してバランスのとれた外観に。

事例ノート. CASE 2

愛知県春日井市

仲部エクステリア 株式会社 様

サンプルが充実した屋内展示場が好評。
毎週の会議やアンケート回覧など
情報は全員で共有してミスのない仕事を

化粧ブロック販売の会社から独立して、37年前に当社を創立。当初は右も左もわからず、見積もりもつくれませんでした。必死で業者さんや職人さんに聞きながら1年半ぐらいで仕事を覚えしました。

広報活動はほとんどしたことがなく、知り合いやお客様からの紹介を中心に少しずつ顧客を増やしてきました。

途中からはハウスメーカーからの紹介が増え、現在はハウスメーカーの紹介が6割、個人のお客様が4割ぐらいの比率です。また最近ではHPをご覧になったお客様からの問い合わせも増えてきています。

モットーは、お客様がなにかひとつでも感動してくださり、「やって良かった」と言われる仕事をする。そのためにも、施工の終わったお客様には必ずアンケートを取って、率直な感想をいただき、クレームや反省点はそのつど改善して次につなげています。

スタッフは社長以下、設計5名、営業5名、工事担当5名、事務5名、現場担当2名です。実績は月に40件前後です。これだけ人数が多く仕事も多いと、なかなか全体に目が行き渡らず、ミスが発生する恐れもあります。それを防ぎ仕事の質を高めるために、毎週月曜日には会議をして、自分が担当でないところも情報交換し把握するようにしています。また、先ほどのアンケートも社内でも回覧し、情報を社員全員で共有するようにしています。

展示場づくりにも力を入れています。10年前に社屋の2階に外構材のサンプルを集めた「屋内展示場」を設置。それまでは現場に化粧ブロックやタイルのサンプルを持って行って打ち合わせしていたのですが、冬など非常に寒くて苦痛だったので、お客様とじっくり選べる場所を室内につくりたかったのです。

3年前には駐車場の隣の敷地に、門まわりと植木の提案を中心にした小さな屋外展示場をつくりました。

今後の抱負ですか。ちょっと会社の規模が大きくなりすぎたので、今の業務ベースとは別に、たとえば別会社を設けるなどして、こだわりのお客様を相手に、1対1で時間をかけてじっくりとエクステリアをご提案する…そんなことがしたいですね。



代表取締役
可児幸雄様



「笑顔を忘れてはだめ」「出逢いはすばらしい」オフィスの壁には奥様の自筆のメッセージが。

施工を終えたお客様には必ずアンケートを書いていただき、それを社員全員で回覧。喜びも反省も共有します。



社屋ビル。2階の部分が屋内展示場です。

屋内展示場

ブロック、レンガ、床材などあらゆるエクステリア素材や、表札・照明などのサンプルが集められています。契約後、お客様と具体的な素材や色をここでセレクト。お子様が飽きないようにキッズコーナーも。「昔のお客様は『おまかせ』が多かったです。最近のお客様は熱心で何時間もかけて選ばれますね」



屋外展示場

駐車場の隣に屋外展示場も設け、門まわりのサンプルなどを展示。とくに屋内展示場では紹介できない植栽に力を入れて、いろいろなパターンを提案しています。





曲線と植栽がアクセントのオープンファサード

M様邸

ご要望は「オープン外構で、建物に合わせた色使いに」。高低差のある敷地を曲線的な塀と階段で柔らかくつなげ、アクセントの植栽でさりげなく目隠し。色は奥様が屋内展示場でサンプルを見ながらセレクトされたとのこと。建物と美しく調和したエクステリアに仕上がりました。



【右の階段】

右のカーポートから見たところ。こちらにもアプローチの階段があり、上がったところで左の階段とつながります。



【植栽がアクセント】

2つの階段にはさまれた植栽は美しいアクセントになっています。道からの視線をさりげなく遮る役割も。

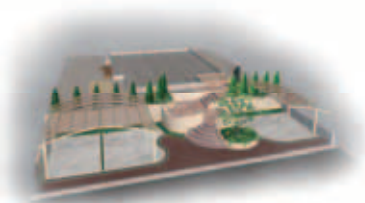


【左の階段】

メインアプローチの階段。優しい曲線が訪れる人をやさしく迎えてくれます。天然石の乱貼り、レンガの縁取り、コテ荒らし仕上げの塀などの組み合わせも絶妙。

【エクステリア全景】

アールのついた階段と曲線の塀が印象的なオープンファサード。カーポートは左右ともカムフィRを採用。屋根の曲線が全体の雰囲気になさしく調和。階段の手摺はエトランポ。



【エクステリア全景】

5台分の車庫と長い塀が続く広大な敷地。外観は洋風ですが、庭は純和風になっています。



屋根付きアプローチ+5台車庫のダイナミックプラン

S様邸

広大な敷地に建てられた二世帯住宅。車は車庫に5台+ゲスト用に車庫前に数台駐められるようにのご要望。庭が広く、門から建物までの距離が長いので、アプローチには通路シェルター・プレラウォークで屋根を設けました。庭は以前お住まいのところから庭石などを持ち込んで和風に。ご両親も満足の仕上がりました。



【和の庭】

以前住んでいたところから庭石や灯籠などを持ち込んで和風の庭に。懐かしい風景にご両親も喜んでいるとのこと。



【屋根つきアプローチ】

アプローチの屋根はプレラウォークを採用。透明屋根のため明るさや景色を損ないません。これがあるので、雨の朝の新聞取りも苦にならないそうです。

【門まわり】

広大な敷地とダイナミックな車庫が冷たい印象を与えないように、門まわりにアールを使って暖かく優しい雰囲気。門扉はスプレシア。電気錠つきで防犯も万全です。



【門～アプローチ】

門扉を開けたところ。建物まで延びる長いアプローチには屋根がついています。

和洋折衷の外観、建物にUC色が調和

N様邸

和風の庭の一部を残し、全面建て替えされたN様邸。既存のブロック塀や和の庭とも違和感がないように、洋にも和にも合う落ち着いたエクステリアに仕上げました。カーポートは中でUターンできる出入りしやすいものをご要望。直線的な家のデザインとも合わせてG-1を採用しました。



【アプローチ】

門から玄関へのアプローチ。門扉はニューラミーネを採用。濃い色調がアクセントになっています。



【奥にもカーポート】

G-1の奥には1台用のカーポート・カムフィRも設置。柱が邪魔にならず、出入りもスムーズです。



【エクステリア全景】

古い和の庭と新しい建物を調和させた和洋折衷プラン。カーポートはG-1、跳ね上げ門扉はエクモアワイド、UC(アーバングレー)色がグレイッシュな建物とマッチして落ち着いた外観に。



【和の庭】

庭の左側には既存の和の庭が残され、新しい洋風の庭とも調和。慣れ親しんだ景色が庭に落ち着きをもたらしています。



事例ノート. CASE 3

三重県伊勢市
有限会社ディープラザ伊勢 様

マンパワーに魅力を感じ、流通業から脱サラ お客様に相見積もりを勧め、提案力で勝負

流通業に勤めていた時、研修セミナーで出会った建築関係の人から「建築業界はマンパワーの世界。1人の人間の影響力が大きい」と言われたのがきっかけで、この業界に魅力を感じました。その後脱サラして、ホームセンターの外構・増改築部門のチェーン店で働きながらエクステリアを修行。「お客様が100人できたら独立しよう」と決めて数年後、平成8年の秋に当社を興しました。

オープン時には、新聞折り込みチラシと、ホームセンター時代のお客様100人にDMを送付して告知。当初はエンドユーザーのお客様のみで、なかなか軌道に乗りませんでしたが、3年目ぐらいから次第に工務店などから紹介をいただくようになり、現在はエンドユーザー40%工務店60%ぐらいの比率です。

広報活動は、年2回のキャンペーンに合わせて新聞折り込みチラシをつくり配布しています。

営業活動はゼロ。エンドユーザーのお客様は、以前手がけたお客様からの紹介がほとんどです。伊勢という土地は「ロコミ」のつながりが非常に強いんです。なので、いい仕事をすれば次につながるかわり、悪評もロコミで広がるので大変です。

心がけているのは「すべての行動はお客様のために」ということ。

でしゃばらず、お客様にできるだけたくさんしゃべっていただき、そのなかから趣味や好み、ライフスタイルなどを把握します。最初の打ち合わせから2時間ぐらいは話し込みますね。

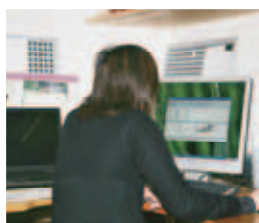
そして、お客様のご希望を十分に反映させたプランをつくり、「よそ様でも見積もってもらって、その中から一番いい業者を選んでください」とお客様に言います。つねに提案の中身で勝負と思っていますから、よそと比較されることも恐れません。

スタッフは社長、専務、リフォームの営業、現場監督の4名。エクステリアとは別にリフォームの仕事もしています。実績はエクステリアで月5〜6件です。営業ゼロ、アフターフォローも特別なことはやっておらず、店もきれいいじゃない(笑)。それでも気に入ったと言ってくださるお客様と誠心誠意おつき合っています。



代表取締役
中村裕紀様

日本画家・中村左洲の家系で育ち、それがエクステリアの色彩感覚やデザインセンスに発揮されています。



左から中村様、奥様・中村幸美様、宇仁田晃宏様

動線などを女性の視点で

「最初の3年は大変でしたが、徐々にお客様が増えてきましたね。私は女性ならではの視点で、動線や使いやすさなどにも気をつけてご提案していきたいと思っています」(中村幸美様)

プレゼンボードでしっかり提案

「リフォーム部門を担当。未来の暮らしに夢が広がる住まいづくりの提案を、イメージしやすいように3Dを活用したプレゼンボードでお客様に提案しています」(宇仁田晃宏様)



【門まわり】
門扉は重厚感のあるモンブレム、スライディングゲートはニューサイドレを採用。直線的なシンプルデザインが新和風のエクステリアに調和。ゲート越しに透けてみえる庭の景色が美しい。



【扇形に貼ったタイル】
ファサードの床もひと味違います。扇形のパターンが和風でおしゃれ。



【中庭全景】
幾何学的な石の配置が斬新な和の庭。手入れをラクにとのご要望で、砂利部分は防草シートを敷いてあります。

シンプル&洗練の新和風エクステリア

M様邸

築3年の住まいのエクステリアをリフォーム。内装も全部やりなおしたというこだわりのお施主様。「ありきたりの和風でない、シンプルで新しい癒しの庭を」というご要望にそって、竹垣を多用して柔らかい雰囲気をつくり、中庭は敷石を幾何学的に並べるなど斬新なデザインの枯山水風に。門扉はモンブレム、スライディングゲートはニューサイドレを採用して、洗練されたイメージの外観に。



【エクステリア全景】
塀はブロックにモルタル塗りで仕上げ、ベージュ系の建物と同じ色でコーディネート。内側に見える竹垣が柔らかい雰囲気を醸し出し、門とスライディングゲートのブラックが全体を引き締めています。



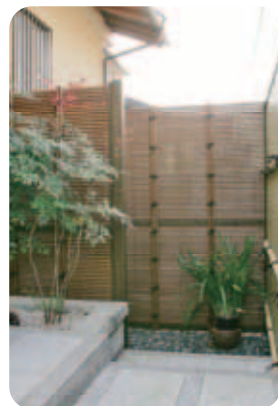
【門〜玄関アプローチ】
門まわりから玄関まで続く丹波石乱貼りの床と、植栽や竹垣のバランスが絶妙です。右の写真は玄関から門を見たところ。

お客様の声 癒しの家と庭ができました

「50年以上働きづめだったので、これからは夫婦でゆったりと過ごしたいと、素材やデザインにもこだわり、思い通りの家建てました。テーマは“癒し”。庭も外まわりも、希望していたシンプルで新しい雰囲気に生まれ変わって大満足。毎日癒されています」(写真左・M様談)



【濡れ縁から見た中庭】
斜めにレイアウトされた敷石が印象的。竹垣が目隠しの役割も果たし、落ち着いたつるる庭に。



【御簾垣で目隠し】
玄関脇は、竹の御簾垣を前後に立てて奥をさりげなく目隠し。



【4枚引き戸の玄関】
格調高い玄関には、ダイナミックな4枚引き戸・錦峰を採用。白木調の和モダンな雰囲気が印象的。

アールと木塀でおしゃれな門まわりを演出

I 様邸

門まわりとフェンスをリフォーム。もとの出入り口とは真裏の方角に、新たに門をつくりました。お施主様の要望もあってアールのデザインと木製フェンスを多用。鋳物の手摺りやポスト、照明器具、立水栓などディテールにもこだわり、おしゃれでナチュラルな雰囲気のエクステリアが実現しました。



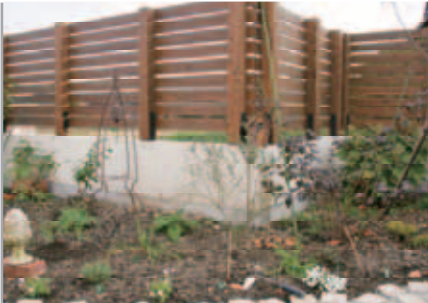
【門～アプローチ】
階段を上った正面に壁が立ち、中への視線をさりげなく目隠し。アプローチはここから右に折れ、曲がりくねりながら玄関へ。



【門まわり】
高低差を生かして立体感のある門まわりに。門塀も床もホワイトで統一。曲線的なラインがやさしい雰囲気演出。ポストや照明など小物使いも効いています。



【美しいディテール】
門塀にはスリットが設けられ、庭がチラリと見えるように演出されています。鋳物の飾りがエレガントなアクセントに。



【木製フェンスと花壇】
敷地の周囲は木製フェンスでやさしく目隠し。庭の一角は奥様の花壇になっています。

レンガ+天然石で懐かしく素朴な雰囲気に

K 様邸

K様からのご要望は「素朴でナチュラルなイメージ」。それに応えて、レンガや石など天然素材を使って門まわりや庭をプランニング。門から玄関までが遠いので、アプローチは敷石に変化をつけて楽しみながら歩けるように工夫しました。



【カーポートから庭を見る】
カーポート（手前）との段差にレンガと塗る塀を使用して、表の門まわりとコーディネート。隣家との境は木塀が目隠し。



【玄関アプローチ】
門から折れ曲がって玄関にいたるアプローチ。アールに組んだり縁取ったり、変化をつけながら幾何学模様と並べた敷石が美しい。

【レンガの門まわり】
素朴でノスタルジックな感覚のレンガ製の門まわり。階段につけたアールのやさしさが、人を温かく招き入れてくれます。重くなりすぎないように、周囲の塗り塀は淡い同系色で仕上げました。

第25回 エクステリア施工コンテスト 募集中!!

期間：平成 20年 1月 21日～3月 20日

応募部門：全6部門

A. シンプルモダンスタイル部門

シンプルでありながら個性的な印象を感じさせる住宅部門

B. 洋風スタイル部門

洋館のような端正で洗練された印象を与える住宅部門

C. 南欧風スタイル部門

南ヨーロッパをイメージさせる住宅スタイル部門

D. 和風スタイル部門

和の落ち着いたきと流行にとらわれない普遍的な住宅スタイル部門

E. ウォールEX部門

テラス、アウトドアリビング、バルコニー商品を中心にウォール製品を効果的に使用した施工例（A～D部門以外）

F. パブリックEX部門

公共物件、大型物件及び土木景観物件の施工例部門

各賞

- ① 金 賞 6点…表彰トロフィ・写真パネル・副賞10万円
② 銀 賞 12点…表彰トロフィ・写真パネル・副賞5万円
③ 銅 賞 18点…表彰トロフィ・写真パネル・副賞1万円
④ 敢闘賞 12点…表彰トロフィ・写真パネル・副賞1万円
⑤ 参加賞 …… 応募作品1点につきQUOカード(500円)を贈呈

※詳しくは最寄りの営業所まで

御庭会通信

東海御庭会

11月2日
愛知県名古屋 通信会館にて

東海御庭会では11月2日に「研修会」を行いました。
今回はガーデンアートスタジオの中野正生先生を講師にお迎えしてデッサン講習を行いました。
参加者の皆様は、普段はマウスを扱う手を鉛筆に置き換えて悪戦苦闘する様子もみられましたが、中野先生の理論と手ほどきのおかげでコツをつかむと実際の仕事でもやってみたいとの声しきりでした。終盤には時間が足りないとの早くも次回を要望される声もあり、白熱した研修会になりました。



中国御庭会

11月6日
山口県周南市 ザ・グラマシーにて

中国御庭会では11月6日に「研修会」を行いました。
今回は前年に引き続き(有)エクスプランニングの古橋宜昌先生を講師にお迎えしてプランニング講習第2弾を行いました。いつもながら即、実践に役立つ内容で参加者の皆様も明日からの仕事にどういう風に取り入れようかと思索されている様子でした。
古橋先生はもうおなじみということもあり、講演は和やかに2時間の講演があったという間に過ぎてしまいました。参加者の皆様にも満足感が溢れていました。



御庭番スタッフ紹介

和歌山県和歌山市

コーケン建設

精密でリアルな御庭番は頼もしい武器

全体図は御庭番で、部分パースは手描きで…とそれぞれのメリットを併用してます



エクステリアプランナー 中島麻織 様

入社と同時に御庭番を使いはじめ、現在御庭番歴半年ほどです。操作は教えてもらいましたが、以前の職場で1年半ほど別のキャドを使っていたこともあり、会得は早かったと思います。
両方を使った経験から言えば、御庭番はキャド初心者の方でもわかりやすく、入りやすいと思います。勾配をつけない平面ならすぐ描けますので。ですから、現場での施工経験のある方なら、「とりあえず勾配なしで描いて、あとは現場で対応」という感じでどんどん使っていけるとおもいますね。
私の仕事は単に図面を描くだけでなく、営業と一緒にお客様と打ち合わせ、現場にも行きます。そうしないと、お客様のご要望も直に伝わってきませんし、私の提案の意図も伝えられないからです。営業とプランナーと現場が力を合わせてつくっていくのが楽しいし、お客様が喜んでくださると達成感があります。
今後ますますプラン力と技術力がモノをいう時代になりますので、精密でリアルな御庭番は頼もしい武器になってくれると思います。ただ私は手描きの味わいも好きなので、全体図は御庭番で正確に見せて、部分のパースなどは手描きで雰囲気を出す…というふうに、それぞれのメリットを併用しています。
お休みの日ですか？ 普通にショッピングもしますが、植栽が好きなのでよく見に行きますね。仕事は趣味の一貫なので、勉強したり情報収集したりするのが楽しいんです。



EXTERIOR VIEW 2008
Vol.35

 三協立山アルミ株式会社

〒933-8610 富山県高岡市早川70
エクステリア建材事業本部 情報誌編集室 TEL.0766-20-2261 FAX.0766-20-2071
[http:// www.exteriorworld.jp/](http://www.exteriorworld.jp/)